

三原市立本郷小学校 第6学年 道徳科学習指導案

教材名：「ぼくの名前読んで」

- 1 日 時 令和3年6月24日（木）第6校時（13：50～14：35）
- 2 場 所 6年1組教室
- 3 学 年 6年1組（男子16名，女子13名 計29名）
- 4 主 題 名 家族の愛 C 家族愛，家庭生活の充実
- 5 本時のねらい 父親の手話と涙で語られる両親の深い愛情に気づいた太郎の心情を考えることを通して，家族を敬愛し，家族の幸せを求めて絆を大切にしようとする心情を育てる。
- 6 教 材 名 「ぼくの名前読んで」（光村図書）

7 主題設定の理由

(1) 主題について

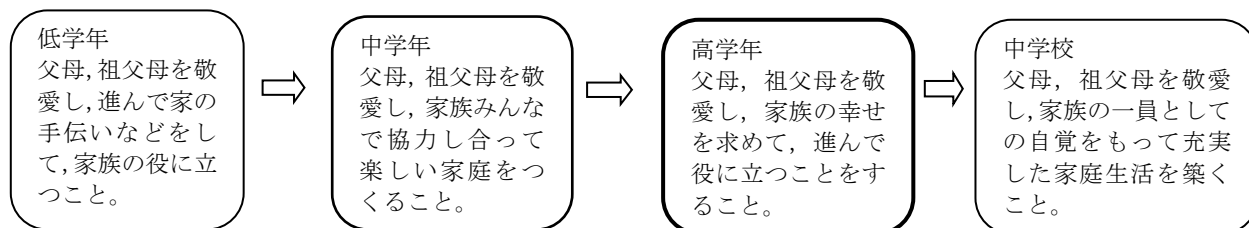
小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の（15 家族愛，家庭生活の充実）の5・6年生指導内容項目の中で，「父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをすること。」を取り上げている。

人は家族の中で生まれ，育つ。様々な事情によって多様な家庭環境の形態はあるが，誰もが支えあい，助け合うつながりをもつ人と共に生活をしている。そのつながりこそが家族であり，生きる基盤である。そこで，自分への家族の愛情を感じながら，愛情を受けるだけでなく，その家族のために何ができるだろうと考えることが大切になってくる。

児童の発達段階においては，自律的な態度が発達し，自分の行為を自分の判断で決定しようとする行為に伴い，責任感も強くなるし，批判力もついてくる。そのことによって家族の愛情を素直に受け止められない場合も出てくる。あるいは，家族に対する敬愛が深まる一方で，家族が何かしてくれることに対しては，当然のことと考えて，日常生活の中で，家族の自分に対する思いや願いについては深く考えることは少ないと考えられる。

そこで，自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して，尊敬や感謝を込めて，家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えてみる機会を設定することが求められる。改めて家族が相互に信頼関係と深い絆で結ばれていることについて考えを深めていき，家族の幸せのために自分は何ができるのかを考えて，家庭での自分の役割を自覚し，家族のために積極的に家庭生活にかかわっていききたいという心の芽生えを感じ取らせていきたい。

【内容項目とその系統】



(2) 児童観

(3) 指導観

本教材は、主人公の太郎と、聴覚障害と言語障害のある両親が共に家族として支えあって懸命に生きていこうとする姿が描かれている。太郎が学校で「自分は一度も両親から名前を呼ばれたことがない。」という事実をつきつけられ、その切ない思いを父親にぶつける。しかし、父の涙ながらの愛にあふれた手話から、両親の深い愛に改めて気づいていくという内容である。

父親が手話で語る「最高の生き方をしてほしい」という思いから、家族の深い愛を改めて感じ、その願いに応えて、自分も家族の大切な一員として支えていきたいという太郎の家族愛に共感し、これからの家族に対する自分なりの思いを深めることができると思う。

指導にあたっては、主体的な学びをしていくために、導入時に「名前」をキーワードに「名前をよばれたことある人」と問い、自分たちが名前を呼ばれることを当たり前と感じていること、大切にされて当たり前と思っているという感覚を立ち止まって振り返らせていきたい。そして「今日は名前を呼ばれたことがない主人公のお話」「愛されていないのかな」等問いかけて、主人公の心情に迫りたい、家族の愛について考えてみたいという課題意識をもたせていく。さらに、展開では自己内対話をしながら自分の考えを自分発見シートに書かせる。その上で、改めて具体的な生活場面を想起させ、実践意欲を高めていく。

対話的な学びをしていくために、太郎の心情のみならず、「両親の願いとは何だろう。」と太郎に深い愛情を注ぐ両親の心情も補助発問で問いながら、多面的に考えさせていったり、「名前を読んでもほしい」という発言に対しても「名前なら他の人には呼ばれているからいいんじゃないの」といった補助発問も用意していきながら、多角的に考えさせていったりする。また、全体で話し合うだけでなく、状況に応じてペアトークを取り入れて、友達の意見にふれさせる。

深い学びをしていくために、太郎の思いに共感的理解を深めていくように発問を構成し、自我関与を中心とした学習の展開としていく。友達の意見を受け入れ、自分の考えをもてるように間をとり、しっかりと考える時間をつくり、よりよい考えを伝え合い、共に高まりあっていく姿をめざす。中心場面以降の発問については、今までの体験場面を想起させながら、終末で導入時の話題をもとに道徳的価値について新たな発見や学びをふりかえらせていく。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】

「誰もが学ぶ喜びと自信がもてる、主体的・対話的で深い学びの創造」

○主体的な学び

- ・導入時に道徳的問題にふれ、課題意識をもつ。
- ・自分自身との関わりでとらえ、考える。
- ・新たな学びを自覚する。

○対話的な学び

- ・協働し、対話する学び。
- ・多面的・多角的に考える。

○深い学び


- ・教師の指導方法の工夫により、新たな気づきや変容がある。

8 本時の展開

(1) 準備物

場面絵 自分発見シート

(2) 学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (※評価)
導入	1 家族と「名前」について話し合う。 	○「名前」の呼ばれ方をきっかけに「家族」についてあらためて振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">名前を呼ばれたことある人 家族に自分はどうか呼ばれていますか。</div> ・「名前」を呼ばれてあたりまえだよ。 ・呼ばれてないって・大切にされていないの？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">家族は・・・「大切」・・・どうしてその思えるのか？</div>	○アンケートの結果も紹介していく。 ㊦ 様々な愛称も含めて当たり前のように「名前」を呼ばれ、関わりあっている自分の家庭を見つめ、「名前を呼ばれたことのない」家庭のお話をするこをつげ、課題意識をもつ。
展開	2 教材「ぼくの名前呼んで」を読んで話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">父親にしがみつき、声をあげて泣いている太郎はどんな気持ちだろう。</div> ・みんなは呼んでもらっている。 ・運動会で転げた時、呼んでもらえなくてさみしかった。 ・どうしてぼくだけ。 ・さみしい。つらい。 ・ぼくは家族に大事にされていないのか。 ・名前をよべれないのなら、生まれてこなければよかった。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">父親の涙ながらの手話を、まばたきもせずに見つめながら、太郎はどんな気持ちで聞いたのだろう。</div> ・父さん、母さんもつらかったんだね。 ・悪いことをいった。ごめんなさい。 ・ぼくは大切にされていたんだね。 ・ぼくは父さんと母さんの子に生まれてよかった。 (父親のどんな思いが伝わったのだろう) ・懸命に大切に育ててきた。 ・りっぱに育ててほしい。 ・大切な家族なんだ。 ・ぼくは愛されているんだ。 ・ぼくが最高の生き方をしていきたい。 ・自分ができていることで家族を支えていきたい <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どうして「家族は大切」と思えるのだろう。</div> ・自分が大切にされているから。 ・支えあっているから。 ・安心できるから ・愛されているから	○臨場感をもち、自我関与できるように、読み語りで教材提示をしていく。 ○どうしようもないことはわかっているながら、悔しさや悲しさをこらえきれずに訴える太郎の心情に共感させ、考えさせていく。 ㊦ くやささ、悲しさを家族にぶつけた経験があるかふりかえりながら、共感する部分を問い、挙手により意思表示する。 ○父親の手話による言葉を文字で映像に映す。 ○ワークシートに考えを書き、交流する。 ○後悔、深い愛情への気づき、感謝、最高の生き方と子どもの意見を整理した構造的な板書にしていく。 ㊦ 「最高の生き方」「両親の願いとは」等、手話の中に出てきた言葉をもとに多面的・多角的に考えられる補助発問を用意しておく。 ㊦ 太郎に共感的理解をしつつ、自らの体験を想起させながら話し合いを進める。 ○「家族は大切」「宝」という言葉をもとに基本発問へとつなげていく。 ※教材を通して気づいたことをもとに、改めて家族の愛を実感し、家族の絆を大切にしたいと考えることができたか。(自分発見シート 発表 見取り)

			<p>②③ 具体的な生活場面を想起させることで、実践意欲を高めていく。 ○新たな学びを自分発見シートに書く。</p>
<p>終末</p>	<p>3 教師の説話を聞き、新たな学びを書く。</p>	<p>家族の愛とは・・・</p>	<p>○家族への愛を心に感じながら余韻をもって終わる。</p>

9 板書計画

父親の涙ながらの手話

ごめんね

- ・愛してくれている
- ・ぼくも大好きだよ
- ・最高の生き方
- ・家族と共に
- ・支えたい
- ・ありがとう
- ・生まれてきてよかった

家族

支えあい
愛

大切にされている



の
か

生まれてこなければ
大事にされていない
つらい
さみしい
ぼくだけ呼んで

声をあげて泣く太郎



最高の生き方
りっぱに
成長してほしい



大切 かけがえない存在
宝物 いつもいっしょ

家族は・・・「大切」・・・